

2. もし、災害が起きたら…

地震

あわてず、まず自分の身を守る

- 頭を落下物から守る



ガラスが
落ちて
くるかも
しれない



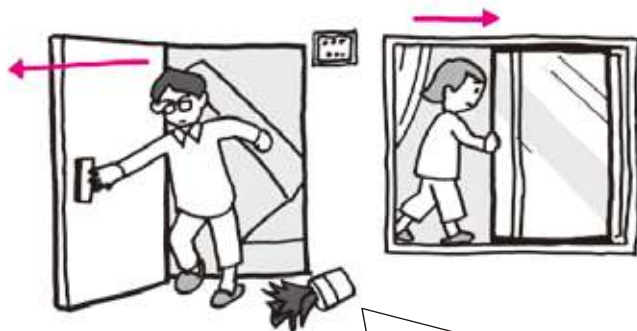
頭を守ろう

- 火の元の確認

揺れが止まった
火をとめよう



- 窓や戸を開け出口を確保



閉じ込められないように
ドアを開けておこう

- あわてた行動はケガのもと

靴や厚手のスリッパを身近な所に常備しておく。

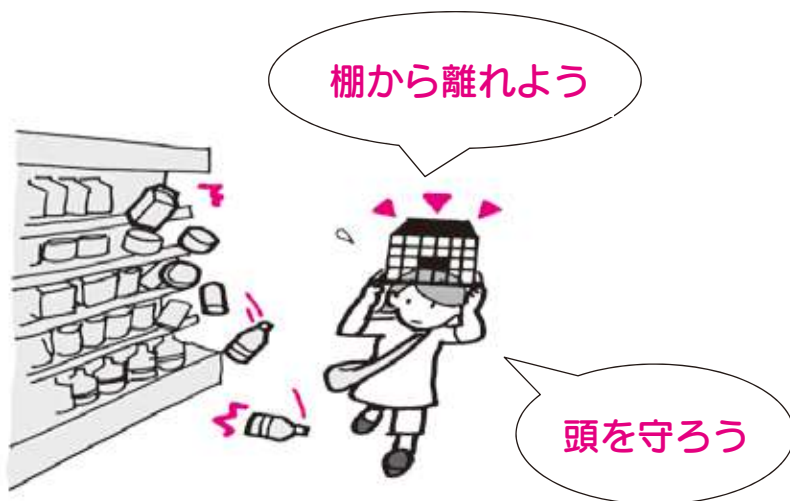
ガラスの破片で
足をケガしたら
大変!!



門や塀に近寄らない



落下物に注意



落下物に注意

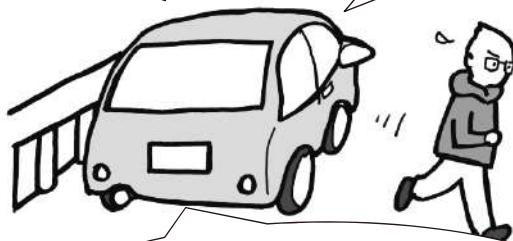
かばんや服でも
頭を守る



運転して

道の左側に
ゆっくり止める

エンジンを
切る



避難をする時は
キーをつけたまま
車を離れる



□ 電車に乗っている時



聞こえない人向け

土砂くずれ・土石流

大雨が何日も続いた時は
災害情報に注意しましょう。



洪水

- ・川沿いや橋は危険ですので、近くを通らないでください。
- ・裸足、長靴は危険です。
- ・近くの安全な高い建物に避難しましょう。
- ・水害ハザードマップで、自分の住んでいる場所がどの程度浸水する恐れがあるか、把握しましょう。



噴火

登山の時は、火山情報を確認し、登山計画書を提出しましょう。



3. 避難所で、どのように行動するか

(1) 避難所の責任者に聞こえない事を伝え、①~③を依頼する

①食料配布等の情報は、紙やホワイトボードに書いてほしい。



②掲示板にお知らせを貼ってほしい。



③手話通訳、要約筆記者、盲ろう者向け通訳・介助員の派遣をしてほしい。

(最終ページの「お願い」を活用!事前に記入しておきましょう)

(2) 自分で情報を得る

①避難所では、お知らせを見る。

②携帯電話の機能(アプリ、ツイッター、ワンセグテレビ)を活用する。

(3) 自分の安否を報告する

- ・メールや災害用伝言板を使って、自分の安否を長野県聴覚障がい者情報センター、又は地域の聴覚障害者団体や支援団体に報告する。
- ・メールが使えない時は、避難所責任者に代わりに連絡してもらうように依頼する。



(4) 避難所の運営に協力し、お互いに助けあう

困っている人を助けて避難所の運営に関わることで、周りの人も聴覚障害に配慮し、助けてくれるでしょう。